

平成 24 年度（第 1 期）

事業報告書

（自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. 財団誌制作事業（助成受贈者の記録）
4. その他の事業
5. 平成 24 年度の事業報告附属明細書

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団
平成 24 年度（第 1 期）事業報告

1. 事業概要

特例民法法人であった（財）韓哲文化財団は平成 24 年 3 月末日をもって閉鎖し、平成 24 年 4 月 1 日に公益財団法人の登記を済ませ、公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団として活動を開始いたしました。

公益財団法人の新しい定款に基づいた本財団の公益目的事業は、日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成。そのほか日本と韓国に関わる国際交流に対する助成が、本財団の助成事業となりました。

平成 24 年 3 月 14 日（木）に開かれた理事会でご承認いただきました第 1 期事業計画に基づいて、第 1 期（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）の助成事業を実施いたしました。

2. 助成事業

(1) 平成 24 年度助成申請の応募受付

今年度、平成 24 年 7 月 1 日から助成申請書の募集を始め、8 月 31 日に公募を締め切りました。その結果、助成申請総数は 74 件でした。

9 月 1 日から約 3 週間かけて、すべての助成申請内容をデータベースにまとめ、そのデータベース資料を 6 名の選考委員に、約 1 ヶ月間に渡って見ていただきました。平成 24 年 10 月 21 日（日）に書面審査の第 1 次選考委員会を開催しました。討議を重ねて選定し、面談を要すると思われた申請者については、11 月 18 日（日）に第 2 次選考委員会を開き、面接を実施しました。

助成申請総数 74 件を厳正かつ慎重に審査した結果、4 団体、5 個人、9 件の助成対象者が選ばれました。助成総額は、15, 164, 500 円でした。なお平成 24 年度は、「韓昌祐特別助成」（上限 500 万円）に該当する対象者はありませんでした。平成 24 年度の助成対象は以下の通りです。

～ 助成対象者一覧 ～

分野	団体名・個人名	助成金額
文化	音楽家 齋藤 徹	200 万円
歴史	文教大学国際学部非常勤講師 朴 敬 玉	200 万円
文化	K-文学振興委員会代表 中沢けい	200 万円
芸術	京都市立芸術大学美術研究科博士課程 韓 希 妊	200 万円
歴史	公益財団法人香雪美術館学芸員 郷司泰仁	106 万 4500 円
歴史	筑波大学体育・スポーツ史研究会代表 大熊廣明	200 万円
文化	「話してみよう韓国語」2014 実行委員会代表 李 允 希	50 万円
スポーツ	(社) 全国肢体不自由児者父母の会連合会代表 上野密	200 万円
歴史	郵便学者・成城大学文芸学部非常勤講師 内藤陽介	160 万円
助成金総額 合計		15,164,500 円

(2) 公募の方法について

- イ 朝日新聞全国版、京都新聞、東洋経済日報、統一日報の新聞広告で公募を告知しました。
- ロ 日韓研究所、コリアセンター、韓国語学科、朝鮮語学科、アジア研究所などが設置されている各大学、研究機関に、本財団のパンフレットを送付し公募を告知しました。
- ハ 韓国文化院（駐日本国大韓民国大使館）職員のメールマガジン及びフェイスブックに、公募の案内を告知しました。
- 二 在日本大韓民国民団の各地方本部に、本財団のパンフレットを送付し公募を告知しました。
- ホ そのほか本財団のホームページにおいて公募を告知しました。

3. 財団誌制作事業（助成受贈者の記録）

（1）財団誌『青鶴』発刊の概要

旧財団法人の（財）韓哲文化財団の「寄付行為」に、助成事業のほかに
論文集の刊行が事業として掲げてありました。論文集の刊行は、事業の柱の
一つでもあり、財団法人として順守すべき行為でありました。
そこで「寄付行為」に準じた事業を遂行する目的と、過去の助成金受贈者
の成長と助成金の使途に関する調査を目的に、平成 21 年度から財団誌『青
鶴』を制作してきました。助成金授与式から 3 年後の助成受贈者を取
材、調査をして財団法人の記録としてまとめてまいりました。

（2）平成 24 年度財団誌『青鶴 4』の報告

平成 24 年度の財団誌『青鶴 4』は、平成 21 年度の助成金受贈者 6 団体、
4 個人を取材、調査の対象としました。7 月上旬に編集会議を開き、6 名の
ライター、4 名のカメラマン、デザイナー 1 名、編集者 1 名、校閲 1 名が
参加し、財団誌『青鶴 4』の制作事業が始まりました。
編集会議から、『青鶴 4』の取材・執筆、「青鶴学術論集」のための論文の所
収、最終的な校閲、印刷に至るまで 7 ヶ月を要しました。
平成 24 年度財団誌『青鶴 4』で調査した助成金受贈者は、以下の通り。

オフィス・クロダ代表	黒田福美
関西学院大学ゴルフ部	河 尊 永
NPO 法人京都フィルハーモニー室内合奏団理事長	小林 明
被差別日系研究所代表	辛 淑 玉
一般社団法人移民政策研究所所長	坂中英徳
日韓合同授業研究会代表	善元幸夫
映画監督	池田博穂
NPO 法人 IDEA ジャパン理事長	森元美代治
東京藝術大学音楽学部器楽科	朴 琴 香
ソウル近代都市建築研究会代表	富井正憲

4. その他の事業

(1) 助成金授与式

毎年、3月14日に都内ホテルで開催される本財団の助成金授与式は、助成対象者の助成計画のプレゼンテーションの場でもあり、また韓国政府の韓国文化院文化院長をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓民国民団中央本部団長、在日世界韓人商工人連合会会長、在日本韓国人連合会会長などが列席し、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓親善・交流の場となっています。

平成24年度の助成金授与式は、3月14日（木）17時から帝国ホテル東京本館4階「桜の間」で開催されました。

(2) 記念レセプション

本財団の助成金授与式のあと、恒例となった記念レセプションが催されています。この宴席には過去に助成を受けた（財）韓哲文化財団時代の助成OBたちが参加して、日韓のテーマで繋がった各年度の助成OBたちの交流が行なわれています。記念レセプションの中に、「祝賀コンサート」が設けてあり、助成OBの音楽家による演奏もあり、それぞれの芸術性を披露する場にもなっています。

平成24年度の記念レセプションは、3月14日（木）18時30分から帝国ホテル東京本館3階「富士の間」で開催されました。

5. 平成 24 年度の事業報告附属明細書

1	平成 24 年度の助成事業総額	15,164,500 円
2	公募関係費（式典費）	6,979,367 円
	（広告費）	3,501,737 円
3	財団誌制作費（原稿料）	3,600,000 円
	（印刷費）	953,082 円
4	役員報酬	3,360,000 円
5	諸謝金	1,966,659 円
6	旅費交通費	1,112,548 円
7	アルバイト給与	174,238 円
8	会議費	203,988 円
9	賃借料	315,000 円
10	通信運搬費	57,030 円
11	図書費	36,240 円
12	接待交際費	10,500 円
13	減価償却費	21,875 円
14	租税公課	9,900 円
15	消耗品費	1,590 円
16	諸会費	1,000 円

事業費総額 37,469,254 円